

～選んだ道を正解にする～

河端瑞貴研究会 K.M.さん 単独インタビュー

経ゼミ委員：なぜ河端ゼミを選んだのですか？

K.M.さん：まず、僕はバドミントンサークルに入っていて、サークル人間で、本当にサークルに大学生活の8割を注いでいたので、あんまりゼミに対してモチベーションが高かったわけではありませんでした。なので、**サークルと曜日が被らないゼミを探していました**。サークルの活動が月・水・金曜日だったので、河端ゼミは火曜日に全部ゼミが終わる（本ゼミ・サブゼミ全てが1日で完結する）とのことで、チェックしていたのがきっかけですね。

経ゼミ委員：珍しい選び方ですね！

K.M.さん：中には、勉強をめちゃくちゃやりたいというよりは、**自分が今までやってきたこととバランスをとってやれるゼミを探している人**もいると思うので、そういう人とは合うのかなと思います！

経ゼミ委員：他にも曜日が被らないゼミがあったと思うのですが、その中でも河端ゼミにされた理由は何ですか？

K.M.さん：サークルを考えると、火曜日と木曜日に活動するゼミを中心に見ていました。そのような中で、実は、元々僕は経済学部志望ではなくて、他の大学の他の学部を志望していたので、経済学を面白いと思ったことはなくて...座学的なことや机上の論理みたいなものではなくて、**もっと実学的な勉強がしたいなと思っていたので**、河端ゼミの経済地理・都市開発系のゼミというのは**GISっていうソフトを使って**、企業の最適立地だったり、混雑率についてだったり、**現実に即した具体的な研究ができるのがすごく面白いな**と思って、そこからオープンゼミに参加して、説明会に参加して、どんどん志望度が高まっていったという感じです。

経ゼミ委員：第一回入ゼミ説明会から入ゼミ試験までに、どのような変遷がありましたか？

K.M.さん：第一回入ゼミ説明会では、色々なゼミを見て回ったんですけど、10月の第二回入ゼミ説明会ではサークルの執行代が2年の12月からだったので、執行代で役職に就いて頑張ろうって思ったタイミングで、練習もなるべく行きたいし、イベントにも参加したいし、

ゼミが負担になるようなある意味嫌な言い方ですがガチゼミとかは避けて考えた結果、火曜日本曜日に活動があるゼミに絞ってみるようになりました。他に2つくらいのゼミも結構見えていました。

経ゼミ委員：入ゼミイベントの中で印象に残っているイベントはありますか？

K.M.さん：オープンゼミがとても印象に残っていて、河端ゼミのオープンゼミでは、実際にGISというソフトを使って、「港区に新しいハンバーガーショップを立てるとしたらどこに立てるか」という課題を2時間みっちりやるんですよね。実際にソフトを使って、触ってみて、こんなことができるんだ、あんなことができるんだっていうのがすごくわかったし、僕が求めていた机に向かっての勉強ではなくて、港区に照らし合わせて考えたらこんなことが分析できるんだねっていうのがすごくよくわかって、周りも**オープンゼミ**で**すごく志望度が上がったという風に言っている人が多くて**、毎年恒例というか、1つ下の代でもハンバーガーショップはやろうっていう風に毎年やっています。

経ゼミ委員：ゼミの雰囲気はどのような感じですか？

K.M.さん：元々サークルの1つ上の先輩で1人河端ゼミに所属している方がいて、その方から教授もすごく優しく、ゼミ生もすごく丸いというか優しい人が多いと聞いていました。僕が実際に入ってみたら、本当にその通りで、所属するコミュニティも全然違うし、初めましての人たちばかりだったんですけど、何かこう**穏やかで誠実**な方が多かったのも、**この人たちと一緒に2年間勉強ができて良かったな**と思います。

そうなる**1番の理由がたぶん教授**なんですけど、河端教授はすごく優しく、女性なんですけど、僕たちのママみたいな感じで、すごく温かく見守って下さっているので、それが何かいい雰囲気を作ってくれているのかなって思います。だから、僕たちが抜けても、その**河端ゼミの雰囲気は教授がいる限りは変わらず続いてくれるんじゃないかな**と思っています。

経ゼミ委員：教授説明会より前から河端先生をご存知でしたか？

K.M.さん：2年生の春に、経済と環境という授業をとっていて、そこで半期は河端先生が担当されていて、たしかにその時にかわいらしくて優しい先生だったのでちょっと気になっていたというのはあるかもしれないですね。

経ゼミ委員：ゼミに入ってよかったところは何ですか？

K.M.さん：1つ**新しいコミュニティを得られた**というのがすごく良かったと思います。僕はサークル人間で、アルバイトもそんなにコミットしていたわけではなかったのも、**サークルの人間関係でほとんど大学生活が終わっていたんですけど、サークルで嫌なこととか辛いこととかがあったときに、それを発散したり切り替えたりする場所がなくて、ちょっと大変な時期もありました。**ですが、ゼミの人たちとは緩く長くずっと話をできていたので、**サークルで何か気分が浮き沈みするようなことがあっても、ゼミのコミュニティがあったおかげ**

で**すごく助けられたことが多かった**ので、経済学の勉強みたいなお堅い話はできないんですけど、みんなで向かい合って勉強する時間とかも尊くて、いい時間だったなという風に思います。

経ゼミ委員：これまでの質問と被ってしまう部分もあるとは思いますが、振り返ってみてゼミは学生生活においてどのような存在でしたか？

K.M.さん：追加でお話するとしたら、就活が楽しかったんですけど、1人でやっていたら**すごく大変**だっただろうなと思います。

サークルの人たちはバドミントンが大好きで、就活について真面目な雰囲気ではなかったんですけど、**ゼミの友達が一番のつながりは勉強**、経済学でつながっている友達なので、就活の話だったり、それこそ金融系とか経営系の就活をやっているときや、都市開発のゼミなのでデベロッパーを志望する人が多いので、そういう話をしているときは、ゼミ生から教えてもらうことがたくさんあるなと思っていたので、**就活とかでも心の支えでもあり、情報交換もできてすごくいい関係だった**なと思います。

経ゼミ委員：入ゼミ試験までにどのような準備をされましたか？

K.M.さん：河端ゼミの選考は、**ESを出して筆記試験を受けたあと、面接**があります。

まず、ちゃんとESを書くというのが人生で初めての経験だったので、2つ上の卒業間近の先輩とか、先ほどお話しした1つ上の河端ゼミの先輩に**ESを3,4回見て頂いて添削をしてもらいました**。かなりブラッシュアップして、洗練された状態で提出できたと思うのですが(笑)

筆記試験はミクロ経済学と統計学のセットで、かなり遅いと思いますが2月の末くらいから勉強を始めて、初めは全くわからなかったもので、誰でもわかる馬鹿でもわかる超基礎の基礎のような教科書から始めました。3月12日に入ゼミ試験があったので、3週間くらいで仕上げたのですが、**その3週間くらいは1日10時間くらい受験生みたいに勉強したの**を覚えています。火事場の馬鹿力で頑張ったという感じでした。

経ゼミ委員：そうなのですね！その短期間にがっとな集中してやられたのですね。

K.M.さん：そうですね、**入りたかったというのがすごく大きかった**ですね。

経ゼミ委員：A日程がもし受からなかったら...といったことは考えていましたか？

K.M.さん：実は僕はあまりそういったことは考えないタイプで(笑)、気持ち的には、**落ちてから考えれば十分に間に合う**と思っていました。**今この瞬間に落ちることを考えるよりも、受かるためのことを考える方がよい**なと思って、勉強を始めるのもサークルの日程の関係で**すごく遅かったし、面接とかも全然やったことがない**から何を聞かれるかわからないけれ

ど、今は受かることだけ考えてやることやろうという風に切り替えてやっていたのはすごく良かったかなと思います。

あとは、**本当に行きたいゼミがここって決まっているのであれば**、倍率とかで周り比べて弱気になる必要もないと思いますし、**落ちたらそのときはそのときだと考えてやれることをやるのが一番いいんじゃないかな**と僕は思います。

経ゼミ委員：2年生の中でも倍率が高いことを不安に思っている人がいると思うのですが、そこよりもまずは**自分が本当に入りたいゼミを見つけることを一番に考えて、ゼミ説明会に参加してもらえたら嬉しい**です(笑)

K.M.さん：仮に倍率が4倍でも、馬鹿を3人見つけられればいいだけなので(笑)、そこはもう自分が頭が良くなれば終わりだ！と思っています。

経ゼミ委員：どのゼミに入るか迷っている2年生へ、何かメッセージはありますか？

K.M.さん：僕は経済学に興味があったわけでも、何か強い志があったわけでもないのですが、それでも何となく惹かれたゼミがあって、何となく入りたいなと思って、勉強は一生懸命頑張って、それで**今本当に入って良かった、2年間この人たちと勉強して良かったなと思えることがあった**ので、やっぱりご縁なのかなと思います。

ピンときたゼミでもいいですし、一生懸命調べて分析して決めたゼミでもいいですし、結果自分が受けたゼミがそれであればそれが正解だと思うので、**とにかく自分の気持ちとか直感を信じてもらえたらな**と思っています！

経ゼミ委員：これまで大学や学部、サークル、ゼミなど色々な選択をする場面があったと思うのですが、そのような節目でのK.M.さんの判断軸はどのようなものなのでしょうか？

K.M.さん：僕は元々、国立の大学の経済学でない学部を志望していて、そこでバドミントンの体育会に入ろうと思っていたのですが、落ちてしまってそれが叶わなくて。**うまくいかない形で始まってしまっていたのですが、最終的にはそれもご縁だ**なって思えたのが良かったなと思っています。

慶應に入ったことも何かのご縁ですし、今そのおかげで色々な方に出会えているし、結果直感でサークルを選んで今のサークルに入って本当に良かったと思いますし、ということの繰り返しで、きっと河端ゼミとか経済学部っていうものも、人生その都度その都度仕方なく選んだり、自分の直感で選んだりしたんですけど、どちらかというと、**「その選んだ先の人生を後悔しないように何ができるか」**を考えていくことの方が大切だったのかなと思っています。

経ゼミ委員：最後になりますが、**河端ゼミのアピールポイント**はどこですか？

K.M.さん：

①内容がとても実学的

あまり経済学にピンと来ていない人とか、1・2年生の必修の授業で勉強くさくて面白くない人と思う人でも楽しめるような学問になっているかなと思います！

②教授の良さ、人の良さ

教授の優しさとか朗らかさから伝染して、ゼミ全体でいい意味で穏やかな雰囲気を作れている点です。僕みたいにサークル人間でサブ的な活動でゼミを考えている人も居れば、中には高い志を持って熱心に勉強している人もいます。それでも、お互いのペースを尊重しながら一緒に研究を続けてくれたり、忙しいときは引っ張ってくれたり、そういう優しさをもったゼミなので。やっぱり一番は教授かな、教授というか「人」かなと思っています！

ぜひ河端ゼミでお待ちしております！！

【編集後記】

ゼミ生インタビューも第4回目となりました。第二回個別説明会の経ゼミブースで、このゼミ生インタビューを読んでもらっているとの声もあり、とても嬉しく感じました。

今回、タイトルにもあるように「選んだ道を正解にする」力、というのは大学生活の選択の中でも今後の人生においても大事になってくると思います。K.M.さんは、大学入学当初は自分の行きたかった道をいけませんでした。その後の環境でしっかり自分のものにしていきます。皆さんももし希望のゼミに入ったとしても、そのあと自分でその選択を正解にすることが大事になってきますね。また、希望のゼミに入れるようにするためにも、しっかりテスト対策をして本番に自信を持って臨むことが出来れば、ベストですね。まだ試験まで日数がありますので、今できることを行い、準備していきましょう。皆さんの入ゼミが上手くいきますよう、祈っております。（登内美月・田中麻里安）